

6年間の多読プログラムが 生徒に与える効果

ー卒業生へのアンケートからの考察

2025年度 日本多読学会北海道多読指導者セミナー
@The Seventh World Congress on Extensive Reading(ERWC7)

元鳴友学園女子中学高校 英語科 講師
Lighthouse Learning Lab主宰
ブレインアナリストプロ、ブレインメンタリスト

山下 陽子



勤務校に2004年に導入された6年間の多読プログラム（高3は貸し出しのみ）が、2024年度で20年になる。

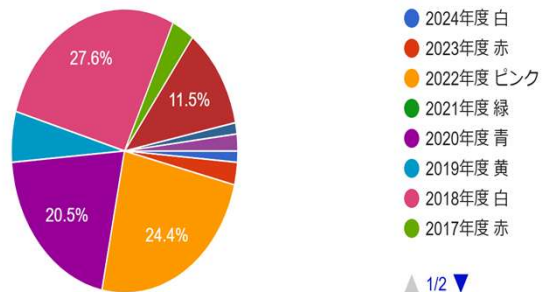
現在はLL Libraryでipadの音源を聞いて読んだり
高校生はデジタルブックダイアリーを導入したりで、
多読は新しいPhaseに入った。

中高で多読をしたことは、卒業後生徒にどのような効果をもたらしているのか？ 特にあまり読まなかった生徒にとってどんな意味があったのか？

2025年2月にGoogle Formでアンケートをとった。

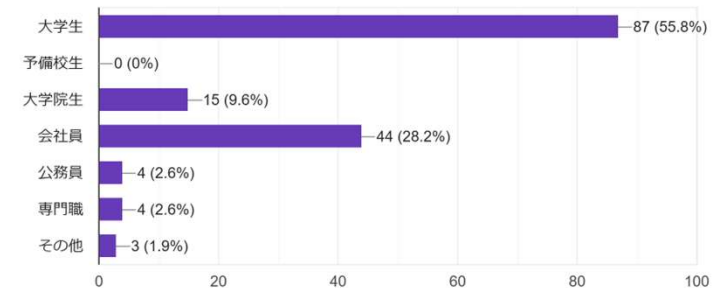
1. 卒業年度を教えてください

156 件の回答



2. ご職業を教えてください。

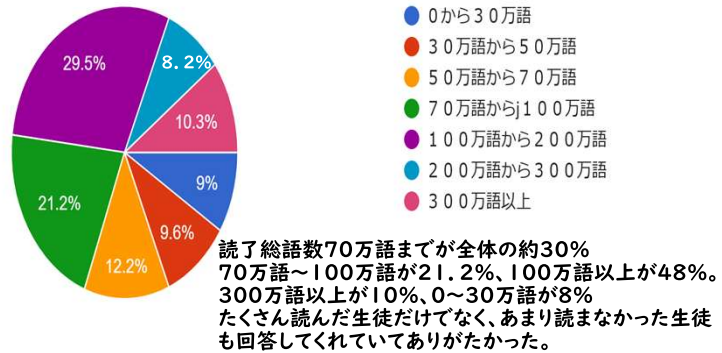
156 件の回答



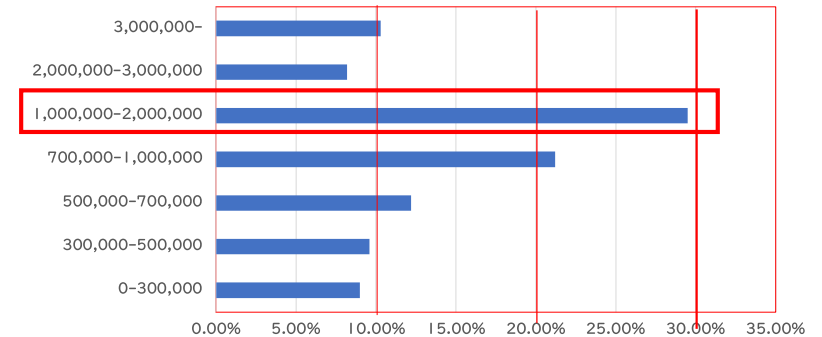
大学生が55%、大学院生が9.6%、社会人が35.3%と
卒業後のステージからバランスよく回答があった。

3. 中高を通して何語くらい読みましたか？大体の数で結構です。

156 件の回答

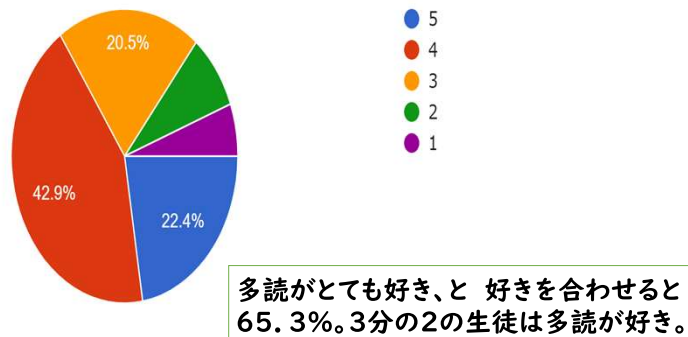


中高6年間に読んだ語数の合計



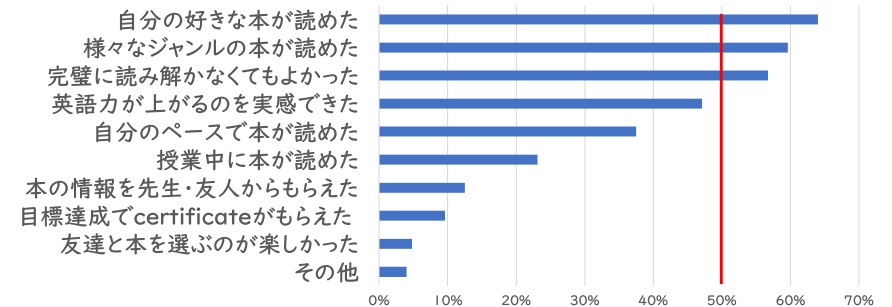
4. 在学中英語多読は好きでしたか？とても好きを5, 全然好きではない、を1として1から5までのうちで数字を選んでください。

156 件の回答



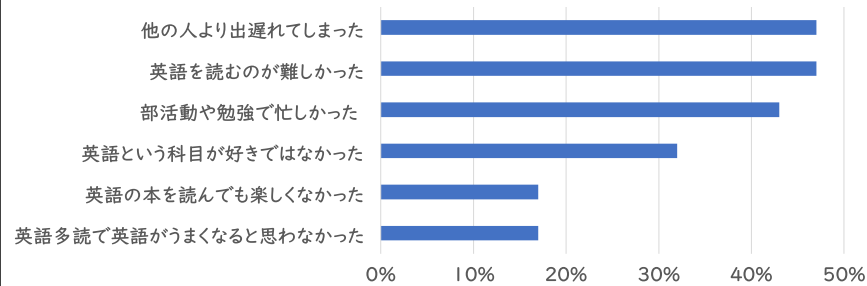
多読が好きな理由

n=104



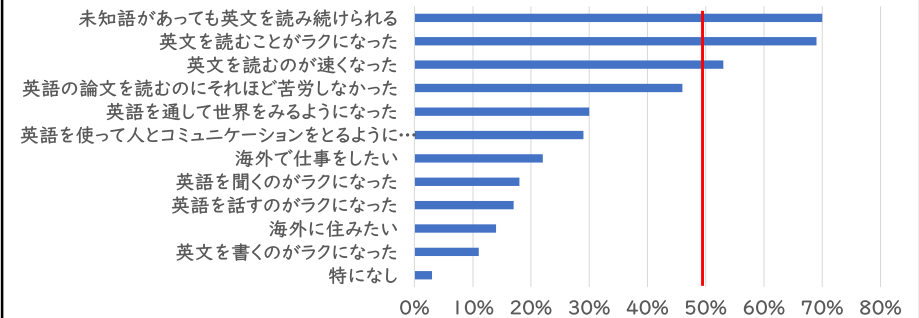
好きな本がいろんなジャンルから選んで読める、完璧に読み解かなくても楽しめればよいとされていたから、に続いて、自分の英語力の伸びを感じていた生徒がほぼ半分いた。

多読が好きではない理由 (n=52)



多読が好きではない生徒たちは、その理由として、英語が好きではないので英語の本を読むことよりも多読に取り組むのが出遅れたことを挙げている。これは、多読指導やリーディングコミュニティ作りに中学の早い段階で、さらに工夫が必要であることを示している。多読の必要性と効果をもっと伝えていく必要がある。

卒業してから、多読をやってよかったと思うことは、何ですか？ (複数回答可)



多読をしたことで、英語を読むことがラクになり、未知語があっても読み進めることができ、読むスピードも速くなったと半数以上の生徒が答えている。そして、45%の生徒が英語の論文を読むのにそれほど苦勞しなかった、と答えている。これは、大学や大学院での学びを進める上で、多読が大きな役割を果たしていることを示している。

★卒業してから、多読をやってよかったと思うことは何ですか？

(複数回答可)

1. 未知語があっても英文を読み続けることができる 69.9%
2. 英文を読むことがラクになった 69.2%
3. 英文を読むのが速くなった 52.6%
4. 英語の論文を読むのにそれほど苦勞しなかった 45.5%

9. 多読をしていてよかったと思うことを自由に書いてください

必須項目ではありませんでしたが、半数の77人から回答がありました。長く記述してくれている人も多く、内容も複数の点について書いてくれました。

全部の回答を何度も読み返して、そこから共通する内容をコーディングしてみました。

自由回答のキーワードをコーディング (n=77)

1. English Proficiency

(reading, listening, speaking, writing, academic reading
英語の論文を読む、海外での英語での学会発表)

2. Cultural Awareness

(英語圏の文化を知る、その国の方とコミュニケーションがスムーズになる)

3. Global Mindset

(英語ができることで、留学、海外で仕事をする、海外に住む、英語以外の言語を学ぶことに前向き。新しい世界に踏みだすことに躊躇がない。)

1. English Proficiency

現役時代は大っ嫌いでもかなりサボっていたのですが、今振り返るととても役に立っていたと思う。大学でも英語の論文などが読めたり、留学中も読むことには苦勞しなかった。読むスピードも鍛えられていたと思う。(30万語ー50万語)

論文がPDFで自動翻訳できなくても諦めなくなった。(0ー30万語)

英語でいろんなお話を読んでいたら、英語という科目が自然と得意になった。試験の時も国語のように、問題文を読みながら楽しめた。ワクワクした気持ちも持ちつつ、問題に挑めるようになった。わからない言葉も文脈から推測して読む力がついた。(30万語ー50万語)

英語で書かれた長い文章(論文、インターネットの文献等)を当たり前のように読むことができるのは、鷗友での多読のおかげです(300万語以上)

1. English Proficiency

前提として英語に対する抵抗のようなものの突破口として多読は非常に効果的だったと思います。英語に触れる機会が多かったことは自身の現在の英語力に直結していると感じますし、仕事柄毎日英語でコミュニケーションを取るため、つくづく鷗友の多読教育に感謝しています。(50万ー70万語)

英語の読解に対する抵抗が減った。現在個別指導の塾講師をしており、英語を苦手とする生徒を担当することがある。彼らは英語を読む習慣がないため、ますます英語の苦手意識が強まり、英語を嫌いになってしまっている。鷗友の多読の環境が整っていたおかげで、私は英語を嫌いにならずに済んだ。多読は大事な勉強法だと思う。(200万ー300万語)

1. English Proficiency

多読用の本は読みやすさのためにストーリー展開が端折られている事も多く、読み物としての面白さに欠けて飽きやすい面もありました。本を読むのが好きな人は、多読をして力をつける中で、合間にちゃんとした英語の本を読み、英文を深く読む力を養うのも有効な手段かと思います。(100万ー200万語)

英語長文を読むことへの抵抗感はほぼなかったこと。学生時代の塾アルバイトで公立中学生に指導しており、自分の時との苦手意識の差を強く感じた。自分のペースで進められるため、隙間時間を使ってできることもよかった。英語への理解の点では、少しくらい分からない箇所があってもニュアンスや推測で読めるような力がついたこと。(300万語以上)

2. Cultural Awareness

多読がなければ読まなかったであろう本と出会っていることで、日本以外の出身の方との共通の話題があること (50-70万語)

日本ではあまり有名ではないが英語圏では有名な本の話などで盛り上がる
ことがあった (70-100万語)

自然と英語の文化に触れられたこと。(100-200万語)

海外の文化を学べたこと。絵本の挿絵の雰囲気や描写の仕方など、
授業では学べない文化の違いを実感出来た。(50-70万語)

日本語の本を読んでから原書にふれると、あの表現は英語ではこんな感じで表
現されていたのかあというような学びになり、普段の英語の授業では習わない
幅広い英単語に触れることができるのがよかったです。(100万-200万語)

3. Global Mindset

大学生や社会人になって中高で英語の本に多く触れる機会があってよかった。
大学で外国語(英語ではない)を選択したが、英語の多読にある程度慣れていた
ので、その言語においてもニュースや本を習慣的に読んで勉強するのが一番やり
やすいと感じた。海外(非英語圏)で仕事をしているため、英語ニュースも読んだ
りするが、日常的に英語を読むことに抵抗感が少ないと感じる。(30-50万語)

多読がなければ読まなかったであろう本と出会っていることで、日本以外の出
身の方との共通の話題があること 今年からアメリカに就職・進学予定だが、こ
こに至るまでのプロセスで必要だったのがさまざまな英語でのやりとりだった。
(100万語-200万語)

中高を通して多読教育を受けたことで、英語での生活や英語での仕事に
抵抗なく入れました。(300万語以上)

3. Global Mindset

多読は英語へのアレルギー、海外、異文化への挑戦へのハードルを
なくしてくれ、確実に私の世界を広げてくれました。(100-200万語)

もともと英文法の勉強に苦手意識を持ち、英語が嫌いでした。鳴友
で多読の授業を受ける機会を通して、英語が好きになったことで、
今では外国人観光客向けにツアーガイドのバイトをしています。将来
の選択肢が大きく広がるきっかけとなりました。(300万語以上)

生徒の読みの進み方 と 多読指導について

多読をあまり出来ていない生徒でした。在校時(特に中学時代)にもっ
と多読が出来ていたら、より英語を好きになれていたのではないかと、受
験時に英語勉強にかけける時間を他の事に充てられたのではないかと
いう後悔があります。そう思う程に、多読を積極的にしていた友人
人達は早い段階から英語に興味をもって習得している印象がありまし
た。

自分が読んでなくても、友人が多読を取り組んで英語の成績を上げる
のをみて、大学生になって英語力をつけるために多読を始める

代理体験による自己効力感(バンデューラ)

自己効力感の要因 Bandura, A(1977)



生徒の読みの進み方 と 多読指導について

中1のアンケート

因子分析(動機づけ) プロマックス法

スクリー基準

因子は3つ

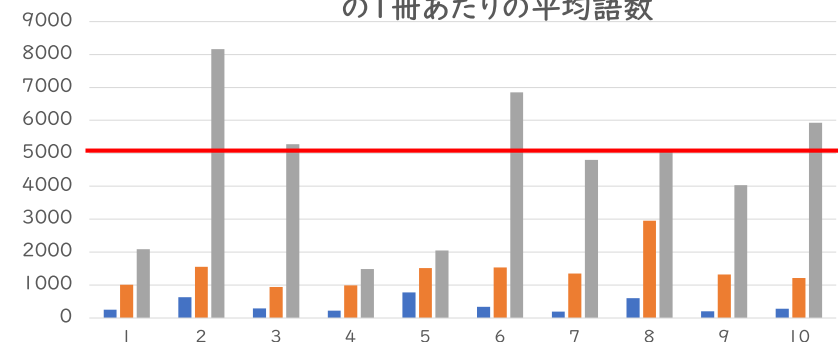
p値 $0.0324 < 0.05$

クロンバックの $\alpha: 0.81$

1. 自分の英語力の伸びを客観的に感じる事(メタ認知)
2. 英語力をつけたいという内発的な動機 例: 留学、海外での仕事
3. 読書の楽しさ

山下 陽子(2016).中学生の多読:楽しく続けるためにどう始める?どう進める?, 関西多読指導者セミナー

中学3年間で100万語以上読んだ生徒の各学年での1冊あたりの平均語数



中学3年間で100万語読んだ生徒たちは、高校生になって Reading Communityのインフルエンサーとなっている

デジタルブックダイアリーを導入して 多読のreading communityは新たなphaseに入った

デジタルブックダイアリーは、貸出しの待ち時間を減らし、
教師はブックダイアリーをいつでもチェックできるようになった。
Listening while readingも、basket booksから簡単にできるようになった。

利便性が向上しただけでなく、**クラスや学年の垣根を越えて、**
さらに教職員も交えての新しいreading communityが形成された。
ハンドルネームを使うことで、同じ本の好みを持つ人をフォローしたり、
コメントを参考に本を借りたり、自由なコミュニケーションが行われている。

山下陽子 LLLibrary My Favorites

Comments

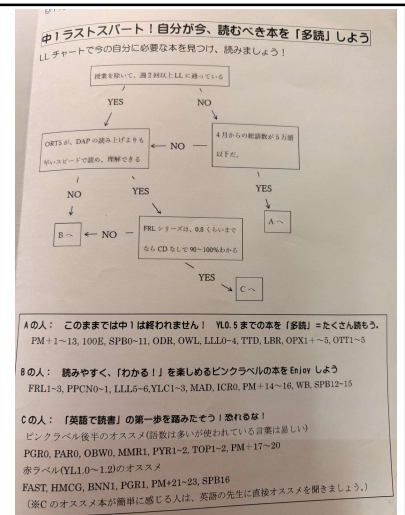
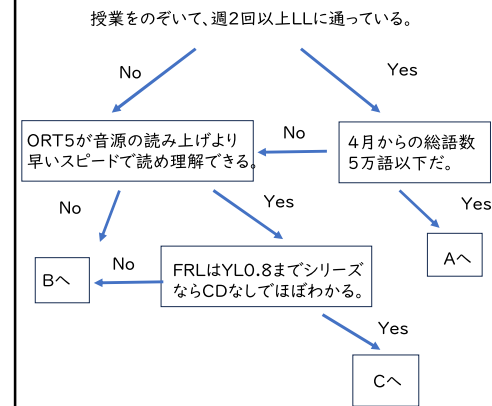
		Name	Books	Words	CMTs	FFs
1	staff		37	879,939	292	11
2	staff		16	691,042	250	56
3	S1		190	1,085,264	190	14
4	staff		18	100,688	157	10
5	staff		51	962,545	121	9
6	S2		76	343,918	112	2
7	J2		8	98,134	111	19
8	S1		105	564,102	102	4
9	staff	きんびらごぼう	18	131,403	88	5
10	S1		83	314,450	87	2
11	staff		23	336,914	86	2
12	staff		51	255,982	80	4
13	S2		33	201,131	77	3
14	S3		0	0	68	2
15	S1		83	261,566	67	1
16	S3		0	0	64	3
17	S1		66	209,584	62	2
18	S3		2	82,000	58	7
19	S3		0	0	58	6
20	S3		30	1,459,464	54	7

[Newsletter]

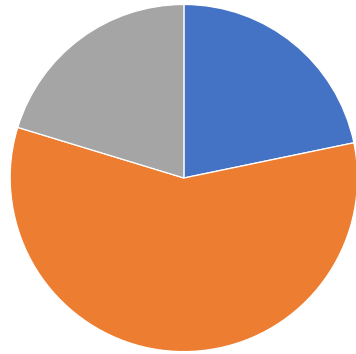
定期的に出すとよいです。
本の情報、先輩の情報
生徒たちの人気の本など
reading communityに
伝えたいメッセージを
載せていきましょう。



フローチャート<今、自分が読むべき本は？>



高2選択多読を選ぶ生徒のタイプ



青：中学では、よく読み(60万語以上)今も時々LLに行って本を借りて読む。

赤：中学の時はそれなりに読んだが、今は授業で読むOBW以外ほとんど読まない。

灰色：中学の時もあまり読まなかった。読むのは苦手。

2016年6月の生徒インタビュー

(上段：多読開始以前、下段：開始2か月後)

T さん	N さん	O さん
日本語をあてはめて読んでいた。 模試の読解問題も時間がなかった。	難しい英文やわからない語があると、読みが遅くなっていた。	理解度 5 割で読んでいた。
6月英検2級の読解は英文を読む抵抗感がなくなっていた。	英文をつかえず読めるLL libraryで本を借りている。週1回の多読クラス、すごい！	理解度が7割に上がった。本の中に習った文法や語彙があるとうれしい！

山下 陽子(2018).第2の波に乗る!多読を続けるために必要なこと:中1と高2のアンケート・Book log・インタビューの分析,多読学会福岡新人セミナー

F さん

英語は、得意ではない。

英語を読む「壁」がうすくなった。
4月以降図書館に週2回は通って 本も借りるようになった。

K さん

塾の先生に「**文法を意識して読め**」と言われた。

文法を意識しなくなったら速く読めるようになり、readingの成績が10点UP

S U さん

中学では夏休みに本を借りたが高1で読まなくなった。

上のレベルの本が読める！
MMR5.6をすき間時間に読んでいる。

6年間の長期の多読プログラムを行う意味

1. 熱心に読む生徒は、語彙が増え、読む体力をつけYL3以上の本を中3には楽しみながら読めるようになる。聞く話す書くにも成果がでて、大学受験や進路の選択肢が増える。
2. **生徒はそれぞれのタイミングで読み始める**
バンデューラの代理体験に基づく自己効力感をもとに在学中も自分のタイミングで読み始める。
大学に進学してから、成果をだそうと多読する生徒もいる。
3. **学年を超えて、Reading communityが構築され**、生徒だけでなく、教職員(特に英語科以外)にも多読の効果が認知され、多読指導のサポートも得られる。

「多読」は生徒たちにとって「未来の自分を応援する」活動である。

短い期間で、限られた人数のアンケートの回答からわかることには限界があるが、卒業生に対してアンケートを行ったことは意義があった。

同じような中高生の長期の多読プログラムの効果についての研究を調べたり、卒業生にインタビューをしたりして、生徒に与える効果についてさらに考えていきたい。

References

Bandura, A. (1977). Self-Efficacy: Toward a Unifying Theory of Behavioral Change. *Psychological Review*, 84(2), 191-215.

Ro, E. (2013). A case study of extensive reading with an unmotivated L2 reader. *Reading in a Foreign Language*, 25(2), 213-233

山下 陽子 (2016). 中学生の多読: 楽しく続けるためにどう始める? どう進める?, 関西多読指導者セミナー

山下 陽子 (2018). 第2の波に乗る! 多読を続けるために必要なこと: 中1と高2のアンケート・Book log・インタビューの分析, 多読学会福岡新人セミナー



Thank you for listening !

